

阿部ちゃん、何かついてるよ

作：さとつりみ

今朝もいつもの場所に阿部ちゃんがいた。

阿部ちゃんはまた泣いていたみたいで、足もとには「涙たまり」をこしらえていた。

だから僕はいつもどおり聞いてあげたんだ。

「どうしたの？」

そしたら阿部ちゃん、僕の「の？」という言葉を言い終わらないうちに

お決まりの台詞を喋りだした。

「ほら、ボクはみんなよりピンカンだろ？」

世の中で起きているどんな小さなことにも気が付いてしまって、

いろんなことが心配で心配でしかたがないんだよ。

それにね、ボクはみんなより、ずうっと小さいだろ？

だから悲しい気持ちがすぐに全身にいきわたってしまって、動けなくなるんだ。」

言い終わると同時に、阿部ちゃんはゆっくりと僕の方に顔を向けた。

見ると、口の周りにドーナツ（チョコ味）の食べかすをやっぱり付けていた。

「付いてるよ。」

結局、僕は今日も言えなかった。

用意していたハンカチも出せずじまい。

だって、それを言ってしまったら、ピンカンな阿部ちゃんが恥ずかしさのあまり悲しくなって、

大好きなドーナツ（チョコ味）をムシヤムシヤできなくなるんじゃないかって、それが心配なんだ。

阿部ちゃん、

僕だってとても小さなことに気が付いてしまっし、

僕にだって心配で心配でしかたがないことがあるんだからね。

だから明日もまた聞くから。

「どうしたの？」